



episode.05

## 一生涯「学び」続ける ハチから「学ぶ」こと

話し手 養蜂家

よしみね けんしろう  
吉峰 憲志郎 さん (昭和22年11月27日生)

聞き手 希望が丘学園 鳳凰高等学校 1年

### 「学ぶ」を常に心がけて

私は最初から養蜂をやっていたわけではないんです。もともとは国鉄に勤めていました。腰を悪くして JR を退職したときに、知り合いから日本蜜蜂の養蜂を勧められました。それが日本蜜蜂の養蜂を始めたきっかけです。養蜂を始めた時は全くの初心者だったわけですから、試行錯誤の連続でした。分からないことが多く、誰かが教えてくれるわけでもなかったの、いつも勉強していました。ミツバチのために役立つ植物の種類を調べたり植えたり、接木を教えてもらったりしました。いつまでも学び続ける姿勢が大事だと思っています。今の若者には学校の勉強だけではなく、日常生活の中からも学んで欲しいですね。

### ハチが教えてくれる危機

2001 年ごろからミツバチの死滅が続いています。私はね、原因は地球温暖化とかいろいろ考えられるけど、一番は「農薬」だと思うんです。実際、日本は欧米よりも農薬の許容量がとても多いんです。ここの周りでもヘリで農薬が撒かれているんだけど、最近の農薬は浸透性が強く、脳神経がやられてしまうので、ミツバチが大量死してしまうんです。これはハチだけの事じゃないと思うんですよ。私たちの命や食の安全にも影響しているのではと心配しています。

### ハチと共に歩む未来

ハチが安心して暮らせる未来を作りたいと思うんです。そのためには農薬を減らしていけるような環境にしたいですね。私は最近の健康被害なんかは、野菜などについて農薬の影響だと思うんです。



農薬はハチだけでなく、人にも影響すると思います。例えば、生まれてすぐの子にタバコを吸わせるようなもんですよ。人は簡単に除草剤や農薬を撒いたりビニールを燃やしたりするけど、そのことによって環境を破壊してるんです。これは人間の存亡にも関わることなんじゃないかなあ。この先の未来を心配してます。養蜂を通して、健康に良い安全な食べ物をつくり食べるべきだとつくづく思います。花粉媒介者\*のハチが安心して暮らせる環境は人も安心して暮らせると思いますね。

\*花粉媒介者…植物の花粉を運んで受粉させ（送粉）、花粉の雄性配偶子と花の胚珠を受精させる動物のこと。



#### 聞き書きコラム

#### 働きバチの一生



働きバチの寿命は季節にもよるが、約1~2か月程度と言われ、その仕事内容は日経つにつれて変わっていく。最初の約2~3週間は巣の中で仕事をし、残りの期間は巣の外で仕事を行う。この期間に蜜の採取や花粉の媒介などをする。一匹のミツバチが生涯に集める蜜の量はなんと、小さじ一杯程度と言われている。